

平成 18 年度 第 1 回御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会 議事録

日時 : 平成 18 年 4 月 28 日 (金) 13:30~15:30

場所 : 御殿場市役所 第 3 会議室

参加委員 : 公募 3 名 (佐々木、福島、神保)

NPO・団体等 6 名 (渡邊、芹沢、鈴木 (雄)、田代、藤村、近藤)

市職員 7 名 (湯山、鈴木 (政)、岩田、山本、勝又、石田、杉山) 学識経験者 1 名 (牛山)

合計 17 名

事務局 : 鈴木 (政)、鈴木 (明)、勝又 (地域振興課)

山本、福嶋 (株ダイナックス都市環境研究所)

1 会長あいさつ (芹沢)

昨年からの議論で、御殿場らしい市民協働型まちづくりのルールが出来てきた。あとは市民がいかにかにやるか。全国に発信していけるよう頑張っていきたい。

御殿場市議会でも今後の行革推進の中で、協働を進めようという話が出たようである。市民と市がしっかりスクラムを組んでいくべきである。13日ははいよいよキックオフ大会、ぜひとも成功するよう期待したい。



2 検討事項 (進行: 株ダイナックス 山本)

山本 今日の本日のメインの検討事項は、キックオフ大会の運営や役割分担についてである。あとは今年度の進め方と市民協働事業の提案募集に関してご意見をいただくこととしたい。

①18年度の市民協働型まちづくりの進め方について

山本 まず今年度の進め方について (メモ) について説明する。

【説明概要】

- ・16年度に指針をつくったが、他の自治体と比べても、御殿場らしさを取り入れた良い指針になっていると思う。17年度は、指針に基づいた協働の取り組みをどう広げていくか、他の自治体調査、ヒアリングや庁内調査などを行いながら検討してきた。
- ・既存の事業についての見直しや、評価をどうするかについてが課題として残っている。今年度は検討が始まり3年目であるが、さらに具体的な進め方、計画的な手順をまとめていく必要がある。
- ・今年度のテーマの1点目は、協働の気運を高めていくため、キックオフ大会での盛り上がった雰囲気をもつないでいく場の持ち方や情報交換の仕方を検討していく必要がある。
- ・2点目は協働事業の評価について。既存の事業を協働という視点で検証したが、まだ精査できていない。これをブラッシュアップし、市民側の評価の観点を加え、評価のやり方を検討する。いくつかの自治体でも評価システムについて検討しているところである。
- ・3点目はモデル事業の実施手法について。審査から事業の終了までをモニターしながら、次年度以降の手法を検討する。最終的には要綱にまとめていくことになる。

- ・そして、これらの具体的な手法を、当初は「推進マニュアル」と言っていたが、「市民協働型まちづくり推進プラン」というイメージでまとめていく。職員や市民が活用しやすいようにパンフレットや冊子の形としたい。
- ・進め方については協議会での検討が主体。全体会のほかに、実務的な検討の場として調査部会をもつ。また途中段階で、モデル事業の実施状況の視察・検証をぜひやりたい。全体会を4回程度、部会を5回程度と想定している。

事務局 協働の講座や研修についても検討していただく必要がある。市民の人に広く知らせたいので、なるべく早い時期がよい。

山本 では第1回目の調査部会の時に、講座の企画について検討し、全体会で確認していただくこととしたい。

委員A 我々の任期は2年であるが、今年度が締めくくりになるのか。

山本 そういう意味で、今まで検討してきたことを集約した推進プランをつくり、次の段階に進んでいくというイメージである。次年度からはメンバーが変わるかもしれない。

委員A 何とか具体的な事業の立ち上げの目処がついたので、素晴らしいプランになると思う。

②市民協働事業の提案募集について

事務局 市民協働事業の募集については、4月20日号の広報に掲載した。その他、ホームページ（地域振興課のボランティア団体紹介）に登録した市民活動団体やNPO法人、男女共同参画推進団体、また社協を通じて、ボランティア協議会のメンバーや、地域福祉づくりの関係者の皆さんに資料を送付した。

（以下資料説明）事業の流れについては、年度内執行の予算なので、7月にはスタートしてもらいたいということでこのようなスケジュールとした。6月下旬には審査しないと市民団体も困るだろうということである。

行政提案部門については4件があがってきている。まだ担当課と地域振興課との調整が出来ていないので、今後細部をつめていくことになる。

今日は、たたき台として、応募用の書類、応募いただいた後の決定通知や、補助金要綱案を作成してきたので、ご協議いただきたい。将来本格的な要綱にしていくが、今年度に試しにやってみて、不備が出てきたら直していきたい。

委員A 30万の上限があるが、事業費として30万だけになるのか？

事務局 要綱案が何もなかったなので、その点は決めていなかった。市民公益活動事業の場合は事業費の10分の8で7万円を限度としている。今回は30万という枠しかないなので、それが限度となる。

山本 これ以外に市民公益活動事業、市民協働モデル地区事業があり、混乱しそうである。

委員B 『申込書』と『事業計画書』の両方に、「事業の目的」を書く欄があるが、重複しないか？

委員A 出来るだけ簡単に書けるような形にしてほしい。

牛山 『申込書』にはどういう団体であるかということを書き、『事業計画書』には事業の中身を書くということだと思うが。

山本 「はじめの一步部門」の場合は、まだ団体になっていないので、『市民活動団体の概要』は別の様式にした方がいいかもしれない。団体でない場合は構成員の名前を書くなど。

委員A 申請書の様式は5万と30万の2通りつくってはどうか。厳しさが違う。

牛山 この要綱案は使うことになるのか？

事務局 これはたたき台だが、出来れば今年やってみて修正していき、次年度に使っていきたい。事務局としてはその方がやりやすいので。書式については、出来れば少ない種類の方がよかったので、汎用できるような形としてみた。

委員B 『申込書』の区分のところ、「査定のうえ」という言葉はいらないのではないか。「上限5万円」で通じると思うが。その方がぜひ使ってほしいという感じが出ると思う。

事務局 では、『申込書』については、タイトルの「公開審査」と「査定のうえ」という言葉を削る。「事業の目的」についても、『事業計画書』とだぶるので削除することとする。『市民活動団体の概要』については、団体になっていない場合があるので、団体の目的や将来像などは書ける部分だけ書いてもらうようにする。

山本 団体になっていない場合は、構成員の名前と住所を書くようにしてはどうか。

牛山 そうなると個人になってしまうのでは。

委員C 仮でも団体名を決めてもらうようにした方が良いのでは。

委員D 『結果通知書』で「公開審査を…」とあるが、はじめの一步部門は公開審査をしないのではないか？

事務局 では「公開」を（ ）に入れて使い分けすることとする。

山本 行政提案部門の募集のしかたはどうなるのか？

事務局 担当課との打ち合わせがまだである。団体にどのようなハードルがあるのかわからないが、同じ様式の書類（市民活動団体の概要、事業計画書等）を使えばいいと思っている。

公開審査をこの協議会でやることになるので、この書類の内容で審査できるかどうかという観点で見ていただきたい。書類はあくまでもたたき台である。

山本 応募があった段階で、この書類を審査することになる。内容にもれがないかどうか。

牛山 同じ様式の書類でどの部門も同じようにやりたいのか？はじめの一步部門は、まだ実績がないが、市民提案部門の場合は団体の実績を書いてもらう方がいいと思う。その事業が本当にこれから出来るのを見ないといけないので。

事務局 では過去の活動の実績を表記自由で書いてもらうか、参考資料を添付してもらう形としてはどうか。

山本 団体の概要のところは経緯や目的より、これまでの実績を書いてもらう方がいいように思うが。いつ出来たか、活動実績など、基本的なことはフェイスシートとしてあった方がよい。

また、協議会のメンバーが所属する団体からの応募があった時はどうするのか？

事務局 他の自治体の例では、自分の所属団体の審査からは、はずすそうである。

委員C 今後の事業スケジュールとして今後5年間の計画を記入するとあるが、単年度の計画書を出す時に、そこまで書ききれないのではないか？

事務局 活動の継続が前提なので、補助金がなくても長期的にやっという計画がないのは問題なので入れた。

委員C 単年度事業に対しての補助金であるので、特に、はじめの一步部門の場合、これから5年後に向けての計画と書くというのも、お金もない段階では難しいのではないか。



事務局 補助金上は単年度なのだが、1回だけの事業で終わっては困る。30万を使ってやった後、他の補助金をもらって拡大していくビジョンがあるなど、将来展望をもっているかどうかを見る必要があると思った。

委員D 単年度の事業ということは、翌年もやりたい場合、改めて申し込みをすることになるのか。

事務局 そうである。その回数は3回が限度なので、3年間もらえるということである。

委員E 単年度しかもらえない事業の場合、事業をする方も単年度という考えになってしまう。先の見通しがあればある程度の計画が出来るが、継続してもらえない場合は宙に浮いてしまう。

委員F 3年終わっても、あと2年間も何らかの形で助成いただけるという思いを持って、5年間の計画を書いていいのか。

事務局 審査なので、翌年ももらえるという保証はないが、次年度もしもらったら、こういう展開をしたいという計画があるとよい。

山本 計画というとかたくなってしまう。自分たちも地球環境基金の応募を出すときに、3年分の計画という欄があるので書くが、適当なことしか書けない。事業をどうするかというより、その団体の活動をどう広げて行きたいか、この事業をきっかけに何をしたいかを書いてもらうのが良いのではないか。計画とかスケジュールというより、もう少しやわらかいニュアンスで、「今後どう展開していこうと思いますか」のように。

委員A 補助金の性格上、無制限というのも無理だから、3年の限度が一般的だろう。

委員G 3年や5年継続で助成を受けられる場合はいいが、毎年申請しないといけない場合、長期の計画がたてにくいので、書くのは難しいと思う。

牛山 たとえば福祉の配食サービスの団体があって、3年もらって終了ということになると市民生活に影響が出るかもしれない。

山本 30万円を使って事業をやるだけではなく、事業を支えるため、初期投資に使う。パンフレットを作るなど、PR費用をまかなう。どうお金を使うかは審査の内容になるだろう。本来、継続的にやることの事業費として丸々30万円使うのではなく、間接的な費用として使うよう、協議会でアドバイスをすればよい。

牛山 今から始まって3年たった頃に、そういう事例が出てくるだろうから、そういう見込みで考えておいたほうがよいと思う。

山本 ただ、応募もない段階で、始めからハードルを高くしないほうがよい。5年の計画を出せと言われてたら面倒くさくなってしまう。

委員A 30万円を原資にして3年間やってみて、市民生活に欠かせない事業になりそうだったら、たとえば福祉の予算の中でやるというのが良いと思う。

委員H 審査をするということだが、審査基準が示されていない。審査基準から問題提起するという考え方もある。審査基準の点数を満たすような問いかけが必要なのでは？

事務局 他市を参考にして、要綱案の中に審査基準を簡単に示している。審査の前に、調査部会で皆さんに議論していただき、どういう基準で審査するかを決めていく必要がある。

すでに募集については、問い合わせが入ってい



る。協働事業で3件、はじめの一步事業でも2～3件。今年は柔軟性を持たせて、皆さんに議論してもらいながら進めていきたい。

山本 3月の全体会のときに、これまで検討したことを手引書の形でまとめた資料をお配りした。そこに選考の基準は整理してある。例えば、はじめの一步部門は、これから活動を始めるもので、立ち上げに当たり行政の支援が必要なもの、活動の継続が前提であること、等。

審査するときはそれに沿って評価していくことになる。そういう観点を申請書の中に示しておくのも良いと思う。行政提案部門の場合は、行政が求めるものがはっきりしているので、審査基準はもっと示しやすいと思う。

事務局 今の段階で問い合わせがあった場合は、公益性などが審査の対象になることを伝えている。

事務局 今日いただいたご意見を参考に、申請書など修正する。事務局に一任させていただきたい。今年は試験的な運用ということでご理解いただきたい。

山本 選考基準は、全体会で確認していただいたので申込書にもっと盛り込んでほしい。

牛山 同時に評価の基準についても考えておかないといけない。活動が終わって、助成に値したものになったかどうか。

山本 評価については、今年度の大きなテーマの1つであるので、今後検討を進めていくこととする。

③キックオフ大会について

事務局 この協議会も入れて21団体から参加応募があった。協働のキャラクターについては以前小学生に書いてもらったが、公募の形が良いという話になり、その後、新聞で募集をかけた。大会の当日に、書いてもらった小学生を表彰する。また、何かの活動をしたい人と活動団体をつなぐということで、「この指とまれ」登録用紙を掲示する。このほか、市民活動講座を予定しているので、希望者には受付で登録用紙に記入してもらおうこととした。

(以下、資料に基づきタイムスケジュールと役割分担について説明)

山本 キックオフ宣言について。白丸を市民、黒丸を行政の方に読んでいただくことを想定してつくった。当初は市長と会長に宣言してもらおうということだったが、むしろ委員の方に読んでいただき、市長・会長にはボールを蹴ってもらおうパフォーマンスをやったほうがインパクトが強いと思う。試しに読んでみてほしい。

事務局 (キックオフ宣言案を2名で朗読)

委員C 黒丸の最後の段落、下2行は2人一緒に読んだほうがいいのでは。

委員H 白丸の2行目には、「市民の多様なニーズに応じていくためには…」の前後に何かことばを入れないとわかりにくい。例えば、「市民の多様なニーズに応じてまちづくりを行うためには…」というように。

牛山 黒丸の最後の段落に「市民の皆さんと市役所職員は…」とあるが、議員は入れなくてよいのか。

委員A 協働の検討が始まって2年間経つが、議会サイドは認識不足のようだ。議員の人に理解してもらうことは非常に大事。何らかの形で参加してもらうのも良いだろう。議長にもパフォーマンスに入ってもらってはどうか。

山本 では議員も市民代表でパフォーマンスに入ってもらっていただく。文章については少し練り直しを行う。宣言文の読み手は男女が良いと思うが、ここで決めておく必要がある。

(→検討の結果、市民から渡辺委員、行政から杉山委員が宣言者に決定)

委員A 参加者にも文章をコピーして配ってはどうか。

委員H OHPで読んでいる部分のみ写してはどうか。

山本 宣言のあと、サッカーボールを3人（市長・会長・議長）で蹴るということだが、どういうやり方になるか。

委員C サッカーボールは、布でつくっている作業所があるので、聞いてみてはどうか。

事務局 「この指とまれ」の登録用紙は、書いてもらって壁に貼るイメージ。事前に何枚かないと書きにくいので、この協議会の委員の団体の会員募集等について書いていただければと思う。

事務局 交流会の出欠をあとでお聞きしたい。また進行役が決まっていないので、ここで決めていただきたい。20人から最大50人ほどの規模になる。（→検討の結果、福島委員が司会に決定）

山本 参加者をどのくらい呼び集められるか。20団体から5人来るとして、100人は軽く超えそう。これから地域デビューしたい方にも集まってほしい。呼びかけ方法を工夫する必要がある。

事務局 市内の工場の宛名シールを頂いたので、案内を送る予定であるが、ただ郵送するだけでは来てくれないと思う。そこで、もし顔見知りの方がいれば、1人10部ほど用意したので、直接手渡ししていただきたい。顔つなぎでぜひ声かけしてほしい。

また、新聞社には、記者会見資料を配ってお願いしたが、再度地元紙には事務局から取材のお願いをする。無線放送も近々行う。ボランティア、NPOなどにはお知らせは配布済み。一般の方にもチラシをぜひ配ってほしい。

事務局 区長会には、先日の総会の席でも資料を配ってお願いした。さらに区長会宛てに今日付で通知を出した。

委員A 人を集めるのはきびしい。企業とは縁があまりないので、個人的なつながりで来てもらうしかない。

山本 ふたをあけて人がたくさん来ると元気になると思う。たぶん人が集まると、議会も市長も役所も自信が持てるし、見る目が変わるだろう。以前、名古屋でゴミ非常事態宣言を出した時に、ゴミのイベントをやったら5千人も人が集まったそう。これでいけると思って、いろんな事業を展開できるようになった。良いことをやっても市民が集まってくれないと役所も心細い。市民がたくさん集まった実績があれば、役所も進めやすくなる。会場があふれるほどになってほしい。

事務局 職員にも庁内でもっと動員をかけたい。

委員A 講演者の渡辺さんは、先だって朝日新聞の「明日への環境賞」を受賞された（グラウンドワーク三島を含む全国5団体が受賞）。気分良く御殿場に来てもらえると思う。職員の方にもこういう事例をぜひ知ってほしい。

事務局 ではこれにて閉会する。

（終了）

